

0305

號

策

閱



軍事

房官臣大		課局務主		裁決	大臣	件	番受
了結	領受	出提	領受				
大正六年六月十五日	大正六年一月十五日	大正五年一月	大正五年一月	平教日第		名	號領
長局帶聯				主務局長	次官	密受第三一號	
長課帶聯				主務課長	高級副官	應名臨時軍用氣球研究會	
者記筆案審				主務課員	主計	件	

丁

伺
之
通

臨時軍用氣球研究會長へ指令案

次官ヨリ外務次官へ通牒案

(以下陸海)

冬期滿洲ニ於ケル寒氣ノ飛行ニ及ボス影響
并之カ防護法研究ノ爲來ル二月十日頃ヨリ約
一週間飛行機飛行試験賓施ノ豫定ニ有之候
條及通牒候也

追テ右飛行ハ根據地ヲ奉天ニ置キ鐵嶺以
南ノ地區ニ於テ飛行シ鐵道附屬地外ニハ飛
行セサル豫定ニ付申添候

十七日

次官ヨリ関東都督府参謀長へ通牒案

冬期満洲に於ける寒氣ノ飛行ニ及ボス影響
并之カ防護法研究ノ爲臨時軍用氣球研究会
ニ於テ來ル二月十日頃ヨリ約十日間奉天附近
ニ於テ飛行機飛行試験實施ノ豫定ニ付可然
便宜ヲ與ヘラレ度候也

陸軍部第一一

陸軍



極秘

大官

次官

軍二

軍事

0308

第五號
陸軍省
密受第三一號

一月十五日

滿洲ニ於ケル飛行試驗實施ノ件伺

大正七年一月十四日

臨時軍用氣球研究會長大島健

陸軍大臣岡 市之助殿

冬期滿洲ニ於ケル寒氣ノ飛行ニ及ボス影響竝之カ防護法ヲ研究
スル爲別冊計畫ニ基キ飛行試驗ヲ實施シ可然哉相伺候也

陸軍

極秘

大正五年二月滿洲ニ於テ飛行試驗實施計画

大正五年一月印刷

一 本試驗ノ目的ハ冬期滿洲ニ於テ寒氣ノ飛行ニ及ボス影響並之ヲ防護法ヲ研究シテ大陸ニ於ケル飛行並船舶又滿洲鐵道輸送關スル實驗ヲ得ルニ在リ

一 本試驗ニ從事スル人員左ノ如シ

試驗班長 佐官 一

試驗班員 尉官 七

下士 一

技手 一

員 一

(庶務及經理) 操縦將校 六

(材料係) 航空大隊 四

(發動機係)

(庶務及經理)

職

工

計 二十一 名

(飛行機六、發動機工三、寫真工二)

三、本試験ニ供スヘキ飛行機並發動機種類左ノ如シ

種類 番 號 發動機

ニューポール 三式第二號 グローブ百馬力

モリス 三年型 三式第六號 ルノー七五馬力

モリス 三年型 三式第四號 カーチス百馬力

モリス 四年型 三式第六號 (内國製) ルノー七〇馬力

右ノ外豫備トシテ「ルノー」七〇馬力發動機二(内國製各一)ヲ推挙行ス

四、試験ハ九月十二月中旬奉天附近ニ於テ實施ス其ノ豫定附表第一ノ

如シ

五、携行器材ハ附表第二ノ如シ但シ其ノ員數ノ内容ハ目的ニ應ジ最小限ニテ

シ又特種品ハ可成現地調辦ヲ避ケ豫メ推ヲ行スルモノトス

六、輸送ハ凡テ鉄道船舶ニ依リ躍進飛行ハ實施セサルモノトス而シテ飛行機相
包ハ可成體積ヲ小ニシ且輸送上ノ利害ヲ比較スル爲各種ノ方法ヲ採用ス
ルモノトス

七、將校以下防寒被服各一組ヲ携行スルモノトス

八、奉天ニ於ケル飛行場ノ使用ノ警戒等ニ關シテハ該地守備隊ニ依頼シ適
宜處置スルモノトス

九、試驗ニ要スル經費ハ凡テ氣球研究會ノ支辨トス其豫算左ノ如シ但シ
器材及消耗品ハ試驗場現存ノモノヲ推ヲ行スルモノトシテ豫算ヲ計上
ス

旅費	四、七四一円	(附表第一、依り第二表旅費ヲ計ス)
運搬費	一、七四四円	(宇品―大連間ハ交通船ニ依ルモノヲ計ス)
雜費	五〇〇円	(航空手當及現地ニ於テ所要ノ雜費)
計	六、九八五円	
一、携行器材ノ内容員數、梱包方法、輸送等ノ細部ニ関シテハ試驗班長於		
テ規定シ出發前之ヲ會長ニ報告スルモノトス		
二、班長ハ四月盡日迄ニ飛行實施ニ關スル結果ヲ詳細筆記報告スルモノトス		

附表第一

大正五年二月滿洲飛行試驗實施豫定表									
日次		試驗班		器材		摘要			
一月二十五日	先發	後發	所澤發送						
二十六日	班長、教官、下士、准員、職員、東京出發								
二十七日	宇品到着								
二十八日			宇品到着						
二十九日	卸下搭載監督		卸下						
三十日			船舶搭載			汽船臺南丸			
三十一日	宇品出發		發送						
二月一日	航海		航海						

二月二日	航海		航海	
三日	大連到着		大連到着	
四日	楊陸艦監督	錢真東京出發	楊陸	汽船臺中丸
五日	大連出發	門司到著	送汽車搭載發	
六日	航海	大連到着		
七日	奉天到着	大連出發	奉天到着	
八日	却下及運搬監督	大連出發	却下及運搬	
九日	其他諸準備	奉天到着	解捆	
十日	天幕建設			
十一日	天幕建設			
十二日	飛行機組立			

0315

十三日	飛行機組立	飛行試験							十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日
																分解梱包	全右	全右
																歸還準備	奉天出發	大連到着
																分解梱包	全右	全右

備考本表ハ多少變更アリトスルヘシ

七 日	五 日	四 日	三 日	二 日	三 月 一 日	二 十 九 日	二 十 八 日	二 十 七 日	二 十 六 日	二 十 五 日	二 十 四 日
	所澤歸著	神戸出發	又積載監督 神戸到着揚陸		航海	航海	大連出發 卸下及搭載監督		大連到着	奉天出發	積載監督
						所澤歸著	神戸出發	神戸到着	航海	航海	大連乗船出發
所澤到着及卸		神戸發送	汽車積載	神戸到着及卸	航海	航海	大連發送	卸下搭載	大連到着		汽車積載 發送
							汽船嘉義丸				汽船豐中丸

附表第二

満洲ニ於ケル飛行試験推行器材表

品目員数			摘要
飛行機	四	附属器具共	
發動機	六	附属品共	
格納用天幕	四	從來モヲ獲得建設後強固法ニ要ス材料ヲ推行ス	
屋形天幕	三	近衛師團經理部ヨリ借入レ推行ス	
自動三輪車	一		
自轉車	二		
土工器具	若干	窓天幕建設爲若干工事ヲ爲シ得ル程度トス	
豫備品	若干	柱脚車輪螺旋機等試験期間所要見込數ノ最下限トス	
飛行具	四組	器具從來モヲ推行シ又諸計器品種ニ應ジ若干減少ス	

事務用品	鍛工器具	木工器具	組立器具	歸真器材	氣象觀測器具	照明器具	發動機器具	發動機豫備材料 又消耗品	修理材料及消耗品
若干	一組	一組	一組	一組	一組	二個	二組	若干	若干
出張期間、事務に堪得ル最小限トス	概不、大正年特別大演習飛行機隊分ニ準ス					從來ノ作業燈ヲ用ユ	品種依リ必要ナルモノ若干増加スルコトヲ得	試験期間ニ應ル所要見込数ノ最小限度トス	

品 耗 消

揮 発 油	モ ビ ー ル 油	ウ ミ ト ル 油	カ ー バ イ ト	藁 繩
-------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	--------

一 五 〇	一 二 〇	四 〇	二 〇	一 〇
-------------	-------------	--------	--------	--------

試験期間各機毎約三時間飛行スモトシテ計上ス

格納用天幕強固材料

備蓄 一 水救携行器材内地七噸貨車八輛満載三。噸貨車四輛積載

スルモトス

二 油類梱包凍結ヲ願慮シ特別ノ處置ヲ施スモトス
三 器材中ニ寒氣ニ対スル防護材料ヲ含有ス

陸軍技術審査部長、近衛師團長及臨時
軍用氣球研究會長、東京陸軍工廠長達案
飛行試験實施、為左記、若シ満沙、出

陸軍技術審査部長、近衛師團長及臨時
軍用氣球研究會長、東京陸軍工廠長達案
飛行試験實施、為左記、若シ満沙、出

軍事課

一〇七 號 一月廿日

(技術審査部長)

工兵上等工長

一名

工兵上等工長 一名

(近衛師団長ニ)

航空大尉附 王軍曹

一名

(気球研究部長ニ)

経負

一名

職工

十名

(東京砲臺工廠技師ニ)

陸軍技手

一名

陸

軍



附

卷第三十一 第一

一月廿五日

機要身四號

大正五年一月廿日

外務次官中野嘉重郎

陸軍次官大島健一

陸軍少佐中野飛行機試験隊

實施ノ件

本件ノ関ニ本月廿日付陸軍省分二号
片ノ字ニ面出際、以テ陸軍省ニ為テ
係陸軍省該關東部督ニ面出被
同方秘書官中野嘉重郎ニ此旨中
也



一月廿五日



0325

